

# 第2工場が生産開始

## クマモクプレカット

熊谷木材工業（埼玉県、飯塚秀司社長）クマモクプレカットが、かねて建設を進めていた木造軸組プレカットの第2工場が完成、生産を開始した。第2工場は構造材（在来、金物）、羽柄材、合板の各加工設備を導入し、当面、横架構造材ベースで月間1000坪の生産を計画、第2工場と合わせ同2000坪体制としていく。

## 構造材、羽柄材、合板各設備を導入

熊谷木材工業は昭和28年設立、同59年には宮川工機の構造材加工機械プレカットを導入するなど、早くから木造軸組プレカットに取り組んできた。平成8年にはクレテック金物加工機を導入、同9年には第1工場の構造材

加工設備を更新した。

同社ではかねて金物加工への対応力強化と構造材以外の加工分野への事業拡張を計画しており、先年、隣接地を買収し、昨年末からここに第2工場を建設、このほど竣工した。

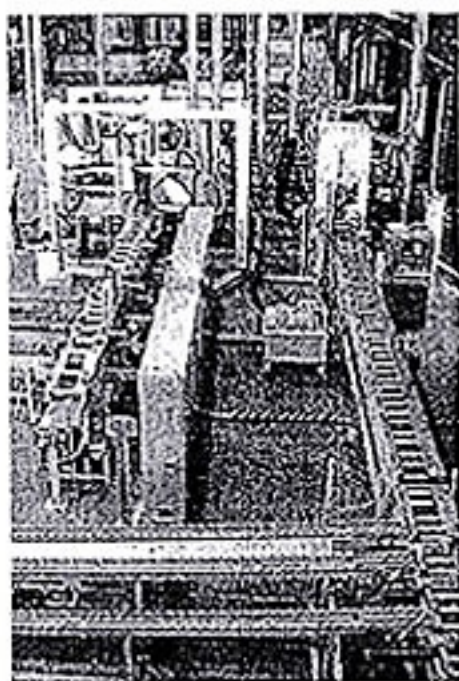
各生産設備は平安コーポレーション製の、全自動在来・金物工法構造材加工機、全自動下地材加工機、全自動野地・床パネル加工機など一式導入。また最新鋭集塵設備（井上電機製）を採用し、工場内環境を整備した。設備

備一式は木工機械商社の東京マシンセンターが担当した。金物はクレテック、テックワンプ3に対応、CADはトリア。

新設備の構造材生産能力は1日1シフト1棟（月1000坪）とそれほど大きくない

が、横架材と柱材を同時投入できることから機械設備が少なく済み、省スペースという利点がある。投入人員も第2工場全体で3人と少ない。

飯塚社長は、「大型工場のような量産は考えていない。地場需要を中心に受注していく。高精度加工や大手が嫌がる難しい加工に対応できる点はかねて評価してもらっている。工場内に大工を3人入れて手加工も行っている」と語る。



完成した第2工場